Society5.0 に向けた一人１台端末の活用のための実践事例通信

学びのアップデート

令和３年７月１４日
第７号
東京都教育庁総務部
教育政策課

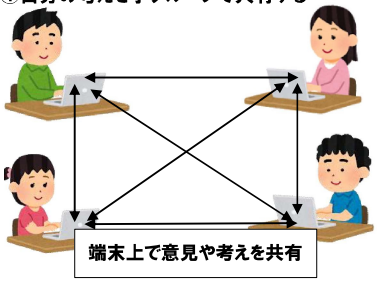
都立学校と区市町村教育委員会向けに、児童・生徒一人１台常時接続環境における ICT 利活用の充実を図るため、実践事例通信「学びのアップデート」を、昨年度から定期的に配信しています。

第７号では、一人１台端末を活用した「意見や考えの共有」について、小学校と中学校の事例を紹介します。一人１台環境での意見や考えの共有は、下図のように、①一人の意見や考えを小グループで共有する、②全員の意見や考えを教室全体で共有する、③グループの意見や考えを教室全体で共有する、などの形で行うことができます。意見や考えの共有を学習活動に取り入れることで、周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれるようになり、主体的・対話的で深い学びを実現することにつながります。授業スタイルも、双方向で協働的なものに変化させていくことになります。

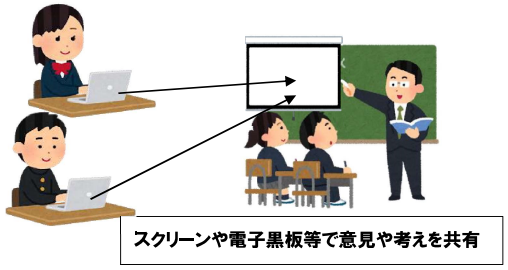
今回紹介する事例を参考に、各学校で整備されている端末や学習支援サービス等のアプリを活用して、授業の中での「意見や考えの共有」を実践していただきたいと考えています。

一人１台環境での「意見や考えの共有」の例

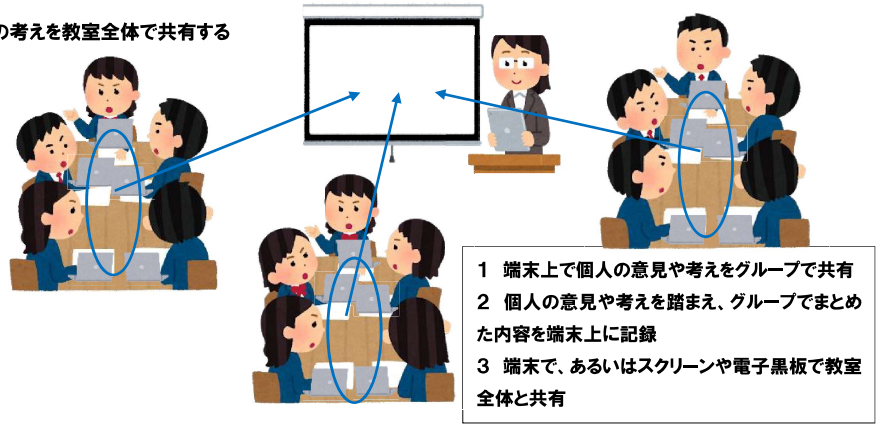
①自分の考えを小グループで共有する



②自分の考えを教室全体で共有する



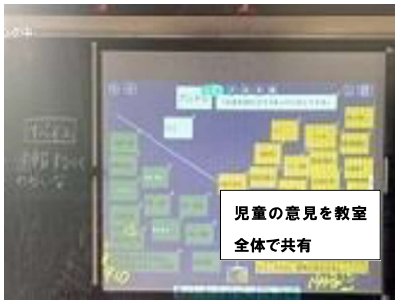
③グループの考えを教室全体で共有する

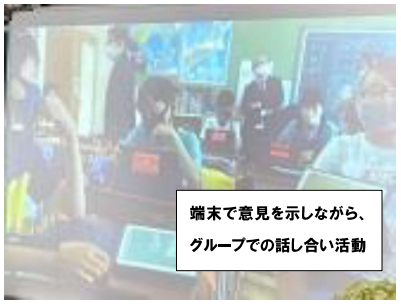


墨田区立外手小学校の事例　「全体での共有、グループでの共有」

墨田区立外手小学校６年生の道徳の授業では、「ほんとうの友達」について考える活動の際、自分の意見を教室全体で、あるいは小グループで共有して話合うために、タブレットＰＣと学習支援サービスのアプリを活用して学習が行われました。

「登場人物三人の中で最も共感できるのは誰か」という教師からの発問に対して、アプリ「ロイロノートスクール」のカードに自分の意見を表明して提出し、教室全体で傾向を把握します。その後、小グループでの話合いで、端末を見せながら自分の意見を表明し、共有します。話合いの後で改めてカードを提出して再度教室全体で共有し、「〇〇を支持する人が増えた」などの傾向を把握したり、意見を変えた人に発言を求めたりします。小グループや教室全体で児童それぞれの意見を共有し、協働的な活動を行うことで、「ほんとうの友達」について考えを深めることができました。





狛江市立狛江第一中学校の事例　「『ジグソー法』での共有」

狛江市立狛江第一中学校１年生の社会科で、日本の地理的特徴について、一人１台端末と統合型学習支援クラウドサービス「Office365」を活用した「ジグソー法」による学習が行われました。

生徒は最初に、「地球上における位置と時差の関係」「日本の領域」など、六つの詳細なテーマのいずれか一つを調べて整理する「エキスパート班」に所属します。「エキスパート班」で活動した後、それを共有する「ジグソー班」に移動します。「ジグソー班」では、それぞれ別の六つの「エキスパート班」で活動した６人が集まり、調べて整理した内容を、統合型学習支援クラウドサービスで瞬時に共有します。コロナ禍の中での活動であり、感染拡大防止の観点から、生徒は席を移動せず、班の活動は統合型学習支援クラウドサービス上で行われました。自分が調べたテーマが一つであっても、「ジグソー班」で六つのテーマを一つのレポートの形にして、ファイル上で共有することで、日本の地理的特徴の全体像について、教室の全員が理解を深めました。

「エキスパート班」での活動
（調べる・まとめる）